

2026 年度浦安キャンパス
大学院学生による
授業評価アンケート実施結果

浦安キャンパス研究科連絡・調整会議

1 アンケートの概要

(1) 目的

浦安キャンパス大学院のファカルティ・ディベロップメント及びスタッフ・ディベロップメント活動の一環として、本学の教育の質的改善に役立てることを目的とし、大学院学生による授業評価アンケートを実施した。

(2) 実施期間

2026 年 6 月 25 日（木）9：00 ～ 7 月 8 日（水）23：59

(3) 実施対象授業科目等

アンケート実施期間中に開講している専任教員が大学院で担当する授業科目(特別演習、特別研究及び履修者 2 名以下の科目は除く。)のうち、専任教員 1 人あたり履修登録者数が最多の 1 科目

なお、1 つの授業科目を複数教員で担当している場合は、当該授業科目の代表教員を授業担当教員とした。

(4) 実施方法

ア アンケートは、学生が PC 又はスマートフォン等を利用してアンケート実施期間中の任意の時間に Web ポータルシステムから回答した。

イ 教員は、アンケート実施期間中の該当授業においてアンケート回答の時間を設けることができることとした。

(5) 集計結果分析及び授業改善策等について

授業担当教員はアンケート集計値を Web ポータルシステムから確認し、集計結果分析及び授業改善策（現状の説明・中間フィードバック・課題及び改善点・学生向けコメント）を浦安キャンパス研究科連絡・調整会議委員長に提出した。

※ 授業ごとの集計結果分析及び学生向けコメントについては「2 集計結果分析 (P5 ～P18)」のとおり。

(6) アンケート項目

1	あなたはこの授業1回につき、予習に平均何時間取り組みましたか
	3時間以上 / 2時間以上3時間未満 / 1時間以上2時間未満 / 30分以上1時間未満 / 30分未満 / ほとんどしなかった
2	あなたはこの授業1回につき、復習に平均何時間取り組みましたか
	3時間以上 / 2時間以上3時間未満 / 1時間以上2時間未満 / 30分以上1時間未満 / 30分未満 / ほとんどしなかった
3	教員はこの授業の目的と目標をきちんと説明しましたか
	強くそう思う / そう思う / どちらともいえない / そうは思わない / 全くそうは思わない
4	教員の説明は分かりやすく、授業の進み具合は適切でしたか
	強くそう思う / そう思う / どちらともいえない / そうは思わない / 全くそうは思わない
5	授業の内容をよく理解できましたか
	強くそう思う / そう思う / どちらともいえない / そうは思わない / 全くそうは思わない
6	教員の学生への対応(質問等)は適切でしたか
	強くそう思う / そう思う / どちらともいえない / そうは思わない / 全くそうは思わない
7	この授業を受けたことで研究に対する意欲が増しましたか
	強くそう思う / そう思う / どちらともいえない / そうは思わない / 全くそうは思わない
8	この授業に対するあなたの満足度はどの程度でしたか
	満足 / やや満足 / どちらともいえない / やや不満 / 不満
9	この授業はあなたの大学院入学の目標達成に関してどんな意味を持ちましたか (自由記述)。
10	この授業について改善すべきと考えられる点があったら書いてください (自由記述)。

(7) アンケート実施科目及び回答者数

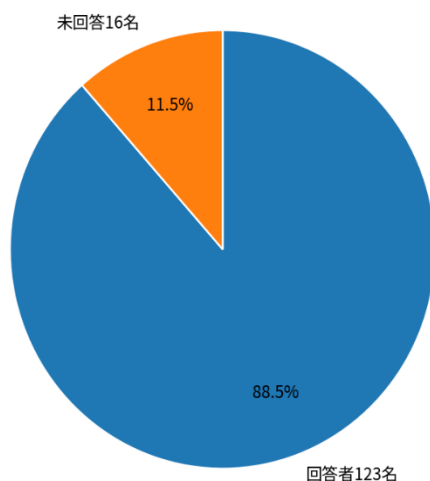
実施対象科目数：19 科目

回答者数：123 名〔対象者数（履修者数）139 名〕

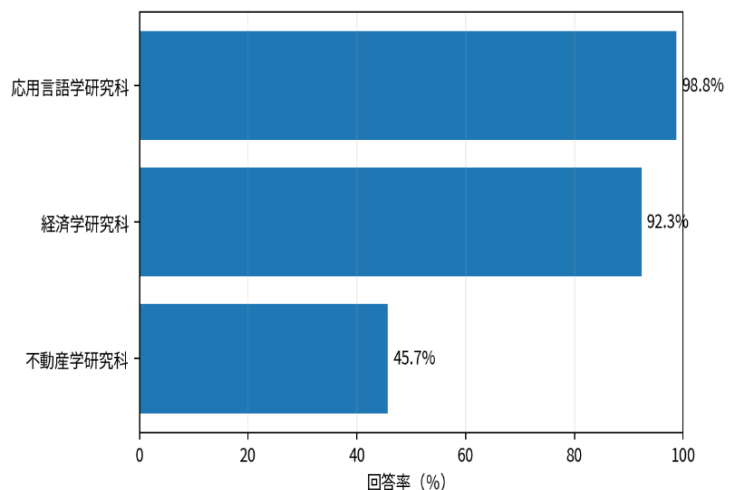
回答率：88.5%

研究科	科目名称	氏名	対象者数	回答者数
応用言語学研究科	応用言語学研究法特論	木山 三佳	14	14
応用言語学研究科	応用言語学特論	中川 仁	15	15
応用言語学研究科	日本語教育方法特論	田川 麻央	16	15
応用言語学研究科	日本語教育教材特論	片桐 史尚	15	15
応用言語学研究科	異文化コミュニケーション特論	鍛冶 広真	6	6
応用言語学研究科	日本語学特論	佐々木 文彦	11	11
応用言語学研究科	現代中国語文法特論	曹 泰和	7	7
経済学研究科	ミクロ経済学特論	廣部 恒忠	6	6
経済学研究科	マクロ経済学特論	影山 純二	4	3
経済学研究科	実証分析特論	中澤 栄一	5	5
経済学研究科	税法通則特論	工藤 克宜	3	3
経済学研究科	研究・論文技法演習	中平 千彦	8	7
不動産学研究科	不動産研究方法論	斎藤 千尋	3	2
不動産学研究科	居住環境マネジメント論	小杉 学	6	3
不動産学研究科	不動産公法特論	兼重 賢太郎	3	2
不動産学研究科	建築計画特論	藤木 亮介	4	3
不動産学研究科	不動産取引法特論	浜島 裕美	7	3
不動産学研究科	都市空間マネジメント特論	前島 彩子	3	1
不動産学研究科	不動産会計特論	山本 卓	3	2
合 計			139	123

大学院全体の回答状況



研究科別の回答率



2 集計結果分析

(1) 応用言語学研究科

【集計結果】

対象者数(のべ)	84
回答者数(のべ)	83
回答率	98.8%

(1) あなたはこの授業1回につき、予習に平均何時間取り組みましたか					
3時間以上	4		4.8%		
2時間以上3時間未満	12		14.5%		
1時間以上2時間未満	29		34.9%		
30分以上1時間未満	31		37.3%		
30分未満	7		8.4%		
ほとんどしなかった	0		0.0%	83	
(2) あなたはこの授業1回につき、復習に平均何時間取り組みましたか					
3時間以上	2		2.4%		
2時間以上3時間未満	8		9.6%		
1時間以上2時間未満	23		27.7%		
30分以上1時間未満	38		45.8%		
30分未満	12		14.5%		
ほとんどしなかった	0		0.0%	83	
(3) 教員はこの授業の目的と目標をきちんと説明しましたか					
強くそう思う	62		74.7%		
そう思う	17		20.5%		
どちらともいえない	4		4.8%		
そうは思わない	0		0.0%		
全くそうは思わない	0		0.0%	83	
(4) 教員の説明は分かりやすく、授業の進み具合は適切でしたか					
強くそう思う	56		67.5%		
そう思う	26		31.3%		
どちらともいえない	1		1.2%		
そうは思わない	0		0.0%		
全くそうは思わない	0		0.0%	83	

(5) 授業の内容をよく理解できましたか				
強くそう思う	48		57.8%	
そう思う	31		37.3%	
どちらともいえない	4		4.8%	
そうは思わない	0		0.0%	
全くそうは思わない	0		0.0%	83
(6) 教員の学生への対応(質問等)は適切でしたか				
強くそう思う	61		73.5%	
そう思う	19		22.9%	
どちらともいえない	3		3.6%	
そうは思わない	0		0.0%	
全くそうは思わない	0		0.0%	83
(7) この授業を受けたことで研究に対する意欲が増しましたか				
強くそう思う	55		66.3%	
そう思う	25		30.1%	
どちらともいえない	3		3.6%	
そうは思わない	0		0.0%	
全くそうは思わない	0		0.0%	83
(8) この授業に対するあなたの満足度はどの程度でしたか				
満足	63		75.9%	
やや満足	19		22.9%	
どちらともいえない	1		1.2%	
やや不満	0		0.0%	
不満	0		0.0%	83

【研究科の総評】

大学院における授業については、本研究科の必修扱いにあたる「応用言語学研究法特論」及び「応用言語学特論」をもとに、基礎言語学の学修とそれぞれの専門分野における研究方法の基礎を学ぶことに着眼点を置き、その学びを広く各分野において、援用できる能力と技法を身につけることを主眼とし、研究を進めていくための第一段階として、研究の根幹を理解するものである。これらを踏まえて、以下のアンケート調査についての結果を提示する。アンケート調査の対象となった科目は、「応用言語学研究法特論」、「応用言語学特論」、「日本語教育方法特論」、「日本語教育教材特論」、「異文化コミュニケーション特論」、「日本語学特論」、「現代中国語文法特論」である。

この度のアンケート調査をもとに、まず授業の予習段階においては、30分以上1時間未満と1時間以上2時間未満の院生が多くを占めていることから、授業科目における専門性の差異がでているものと思われる。また復習においては、30分以上1時間未満、1時間以上2時間未満という数字に集中していることから、予習には時間をかけるが、復習には、それほど時間をかけていない傾向にあるということが理解できた。これについては、それぞれの研究分野と専門性に連動するものであり、関係性のあるところには、時間を要しているものと捉えることができる。

教員の授業についても、授業の目的や目標が、きちんと説明され、担当教員は授業準備にも時間をかけ、研究への取り組みを示唆していることが把握できる。また院生への授業はとくに少人数であるため、専門的なことがらも含め、各分野においての論文の紹介、先行研究のあり方と研究の意図、研究の問題点の抽出とその問題点の調べ方など、最新の研究に対する動向も含め、それらを提示することにより、授業のなかでそれらに対する研究方法へのより良い方向性への導き、論文作成を進めていくための力を涵養していることがよく理解できた。それは教員が授業に対する熱意の現われであると捉えることができる。

そして院生からの質問に対するところについても、的確な指導も含め、課題への解決策も提示している。

授業を受けることで、院生の研究に対する意欲が増したという点についても、教員が研究に対しての助言や研究方法の段階的な指導に熱心に対応し、研究倫理的な側面も重視し、研究の姿勢を自らが示しているからである。

それぞれの分野における授業に対する満足度についても、教員が十分に対応していることがうかがえる。研究には時間を要するものであり、それぞれの分野において、専門家である教員は、院生の研究分野を把握し、適切な助言と的確な研究への導きをおこなっている。

このアンケート調査の結果を拝見し、院生の動向などを改めて把握し、理解することができた。

応用言語学研究科長 中川 仁

【学生向けコメント】

応用言語学研究方法特論
各自、夏休みに調査を行ったり、先行研究を読んだりして、論文を書き進めてください。
応用言語学特論
院生は、毎回、ほぼ全員が出席し、授業に取り組んでいた。授業のなかで、色々な視座に関わる観点を把握し、それぞれの研究分野において、その知識を援用していただきたいと考えている。（修士論文の執筆も視野に入れて、今からその準備をしていただきたいと考えている。）
日本語教育方法特論
授業で紹介した参考文献を積極的に読み、日本語教育に関する知識を自主的に広げていくことを期待します。文献を通して多様な理論や実践に触れることで、授業内容への理解がさらに深まるとともに、日本語教育を多角的な視点から捉える力を養うことができます。日頃から主体的に学習を進める姿勢を大切にし、継続的な知識の習得に努めてほしいと思います。後学期もよろしくお願いします。
日本語教育教材特論
「易しいところ、難しいところ、覚えていたところ、忘れてしまったところ、初めて学ぶところ」が「混在」した内容であったかと思いますが、これは担当の私が最も留意した点です。様々な知識をコンバインして、「応用」の名に恥じない研究をしていってください。応援しています。
異文化コミュニケーション特論
時間をかけて予習をしたうえで授業に参加していることがアンケートでも確認出来ました。後期も講読を中心に進めますが、受講生からの発言や言語データの提供を引き続き歓迎します。
日本語学特論
皆さんがそれぞれに日本語についての疑問や研究のアイデアを提案することによって、前学期の授業を充実させることが出来ました。後学期も積極的に課題を探し、合理的に解決する方法を探っていきましょう。日本語についてはわかっているようで実はわかっていないことがたくさんあります。
現代中国語文法特論
皆さん、前期は真剣に授業に取り組み、一生懸命に理解しようとする姿勢はとても印象的でした。皆さんのおかげで、私も毎回楽しく授業を行うことができました。後期も引き続き頑張りましょう！

(2) 経済学研究科

【集計結果】

対象者数(のべ)	26
回答者数(のべ)	24
回答率	92.3%

(1) あなたはこの授業1回につき、予習に平均何時間取り組みましたか					
3時間以上	2		0%	5%	8.3%
2時間以上3時間未満	7		10%	15%	29.2%
1時間以上2時間未満	7		20%	25%	29.2%
30分以上1時間未満	6		30%	35%	25.0%
30分未満	2				8.3%
ほとんどしなかった	0				0.0%
					24
(2) あなたはこの授業1回につき、復習に平均何時間取り組みましたか					
3時間以上	1		0%	10%	4.2%
2時間以上3時間未満	6		20%	30%	25.0%
1時間以上2時間未満	4		30%	40%	16.7%
30分以上1時間未満	9				37.5%
30分未満	4				16.7%
ほとんどしなかった	0				0.0%
					24
(3) 教員はこの授業の目的と目標をきちんと説明しましたか					
強くそう思う	22		0%	20%	91.7%
そう思う	2		40%	60%	8.3%
どちらともいえない	0		80%	100%	0.0%
そうは思わない	0				0.0%
全くそうは思わない	0				0.0%
					24
(4) 教員の説明は分かりやすく、授業の進み具合は適切でしたか					
強くそう思う	22		0%	20%	91.7%
そう思う	2		40%	60%	8.3%
どちらともいえない	0		80%	100%	0.0%
そうは思わない	0				0.0%
全くそうは思わない	0				0.0%
					24

(5) 授業の内容をよく理解できましたか					
強くそう思う	14		58.3%		
そう思う	9		37.5%		
どちらともいえない	1		4.2%		
そうは思わない	0		0.0%		
全くそうは思わない	0		0.0%	24	
(6) 教員の学生への対応(質問等)は適切でしたか					
強くそう思う	21		87.5%		
そう思う	3		12.5%		
どちらともいえない	0		0.0%		
そうは思わない	0		0.0%		
全くそうは思わない	0		0.0%	24	
(7) この授業を受けたことで研究に対する意欲が増しましたか					
強くそう思う	21		87.5%		
そう思う	3		12.5%		
どちらともいえない	0		0.0%		
そうは思わない	0		0.0%		
全くそうは思わない	0		0.0%	24	
(8) この授業に対するあなたの満足度はどの程度でしたか					
満足	22		91.7%		
やや満足	1		4.2%		
どちらともいえない	0		0.0%		
やや不満	1		4.2%		
不満	0		0.0%	24	

【研究科の総評】

今回の回答率は 92.3%と昨年度の 45.5%と比べて大幅に上回った。昨年度の結果を踏まえてアンケートの周知徹底を図ったことがこの回答率に繋がったものと考えられる。今回のアンケートの回答結果からも、学生（院生）と教員との信頼関係は良好であるとの印象を持った。

アンケートの各項目については以下の通りである。

(1) あなたはこの授業 1 回につき、予習に平均何時間取り組みましたか。

「2 時間以上 3 時間未満」、「1 時間以上 2 時間未満」がそれぞれ 29.2%であった。「30 分以上 1 時間未満」が 25.0%で、83.4%の学生が 30 分以上予習学修していることとなっている。「3 時間以上」は 8.3%で、この数字は昨年度の 30.0%に比べると大幅に減っている。「30 分未満」も 8.3%いて、昨年度に比べると全体的に予習に割く時間が若干減っていることがわかる。

(2) あなたはこの授業 1 回につき、復習に平均何時間取り組みましたか。

最も多かった回答が「30 分以上 1 時間未満」の 37.5%で、次いで「2 時間以上 3 時間未満」の 25.0%であった。「ほとんどしなかった」という学生は 0.0%だったものの、全体的に復習学修の時間が増えることが望ましいと考える。

(3) 教員はこの授業の目的と目標をきちんと説明しましたか。

「強くそう思う」と「そう思う」を合わせると 100%に達する。「強くそう思う」は 91.7%と非常に高い。

(4) 教員の説明は分かりやすく、授業の進み具合は適切でしたか。

「強くそう思う」と「そう思う」を合わせると 100%に達する。「強くそう思う」は 91.7%と非常に高い。

(5) 授業の内容をよく理解できましたか。

「強くそう思う」と「そう思う」を合わせると 95.8%。

(6) 教員の学生への対応（質問等）は適切でしたか。

「強くそう思う」と「そう思う」を合わせると 100%に達する。「強くそう思う」は 87.5%と高かった。

(7) この授業を受けたことで研究に対する意欲が増しましたか。

「強くそう思う」と「そう思う」を合わせると 100%に達する。「強くそう思う」は 87.5%と高かった。

(8) この授業に対するあなたの満足度はどの程度でしたか。

「満足」が 91.7%と非常に高く、「やや満足」の 4.2%と合わせると 95.9%とほとんどの学生（院生）が自身の履修・受講する授業科目について概ね満足しているという評価結果であった。一方で「やや不満」が 4.2%いたので教員側としてはさらに授業内容の質を高めるよう取り組みたい。

総じて教員の意欲や熱意が感じられたという回答がほとんどで、この結果は平素の大学院授業担当教員の努力の結果と思われる。調査対象となった授業科目は多くの学生（院生）から良好な評価を受けているとの判断が可能であり、これを今後も継続する。

今後は研究科の学生（院生）を1人でも多く増やすことに全力を傾けるとともに、入学した学生（院生）が高水準の修士論文を作成できるように、研究指導体制を強化し、また、研究環境を充実させるべく教員が一体となって努力したい。

経済学研究科長 影山 純二

【学生向けコメント】

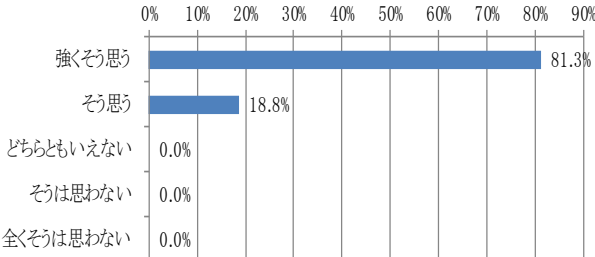
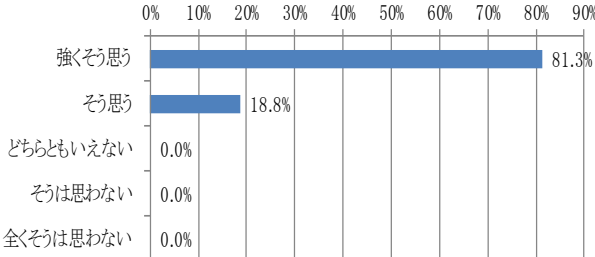
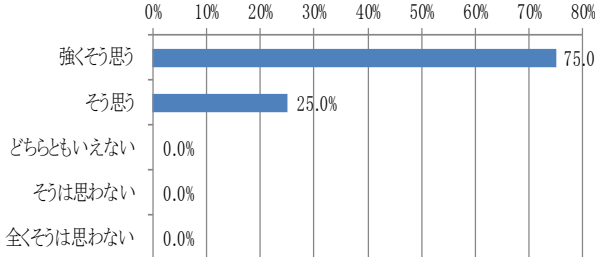
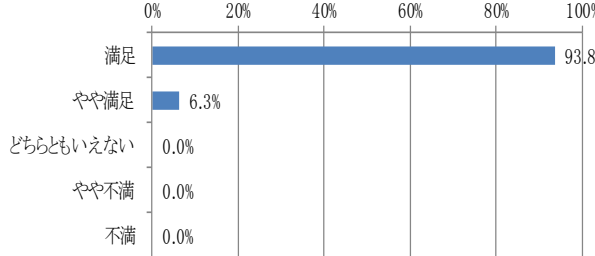
ミクロ経済学特論
ミクロ経済学特論では、経済学部出身者以外、いろいろなキャリアをお持ちの方々にも、大学院レベルで必須の知識と実力を身に付けてもらえる様にカリキュラムを組立えています。学部の内容を網羅し、更に、大学院で必要なミクロ経済学の基礎と応用力を涵養できるような定評のある標準的なテキスト、およびテキストに準拠した問題集を併用することで、実際の経済学の諸問題を解く力も養っていただいております。経済学を学部であまり勉強してこなかった学生さんも、一年間、じっくり取り組むことで、標準的な大学院レベルのミクロ経済学をマスターできますので、ぜひ、頑張ってみてください。
マクロ経済学特論
難しいことも多々あるかと思います。ただ皆さんは経済学修士になるわけですから、その名前に恥じないように頑張ってください。
実証分析特論
毎回の課題をきちんと提出した履修者の人たちは、すでに統計的手法を用いた経済学や経営学の実証分析を、パソコンを用いて自力で行うことができる実力がついたと信じています。これからも、授業を通じて培った能力を活かして、社会で大活躍してくれることを祈念しております。
税法通則特論
実質 6 単位分程度の内容をやっていますので大変だったと思いますが、租税法修士論文を書くための基礎力は着実についてきていると思います。 また、講義時間外の工藤研究室の活動として、財務省大臣官房文書課課長補佐講演、最高裁判所租税法関係事件判決の傍聴、憲政記念館・国会議事堂見学などに参加くださりありがとうございました。 後学期もいろいろ企画していますので、楽しんでやっていきましょう。
研究・論文技法演習
熱心な受講生からは、講義後の質問や課題答案を通じて非常に参考になる意見や示唆を得た。ノートテイキングにも徐々に慣れてきたように思える。

(3) 不動産学研究科

【集計結果】

対象者数(のべ)	35
回答者数(のべ)	16
回答率	45.7%

(1) あなたはこの授業1回につき、予習に平均何時間取り組みましたか				
3時間以上	0		0.0%	
2時間以上3時間未満	1		6.3%	
1時間以上2時間未満	5		31.3%	
30分以上1時間未満	5		31.3%	
30分未満	4		25.0%	
ほとんどしなかった	1		6.3%	16
(2) あなたはこの授業1回につき、復習に平均何時間取り組みましたか				
3時間以上	0		0.0%	
2時間以上3時間未満	1		6.3%	
1時間以上2時間未満	4		25.0%	
30分以上1時間未満	9		56.3%	
30分未満	2		12.5%	
ほとんどしなかった	0		0.0%	16
(3) 教員はこの授業の目的と目標をきちんと説明しましたか				
強くそう思う	13		81.3%	
そう思う	3		18.8%	
どちらともいえない	0		0.0%	
そうは思わない	0		0.0%	
全くそうは思わない	0		0.0%	16
(4) 教員の説明は分かりやすく、授業の進み具合は適切でしたか				
強くそう思う	13		81.3%	
そう思う	3		18.8%	
どちらともいえない	0		0.0%	
そうは思わない	0		0.0%	
全くそうは思わない	0		0.0%	16

(5) 授業の内容をよく理解できましたか					
強くそう思う	13		81.3%		16
そう思う	3		18.8%		
どちらともいえない	0		0.0%		
そうは思わない	0		0.0%		
全くそうは思わない	0		0.0%		
(6) 教員の学生への対応(質問等)は適切でしたか					
強くそう思う	13		81.3%		16
そう思う	3		18.8%		
どちらともいえない	0		0.0%		
そうは思わない	0		0.0%		
全くそうは思わない	0		0.0%		
(7) この授業を受けたことで研究に対する意欲が増しましたか					
強くそう思う	12		75.0%		16
そう思う	4		25.0%		
どちらともいえない	0		0.0%		
そうは思わない	0		0.0%		
全くそうは思わない	0		0.0%		
(8) この授業に対するあなたの満足度はどの程度でしたか					
満足	15		93.8%		16
やや満足	1		6.3%		
どちらともいえない	0		0.0%		
やや不満	0		0.0%		
不満	0		0.0%		

【研究科の総評】

回答率は前年度の 78.8%から大幅に低下して 45.7%にとどまった。3 年前は 100%、2 年前は 80.0%と高い水準で推移してきたことを踏まえ、教員並びに学生に対してアンケートの趣旨に対する理解の浸透を再度徹底すると同時に、アンケートの結果を踏まえた教員の改善意思を高める必要がある。また、アンケートの実施方法を再検討する必要がある。

授業に対する学生自身の満足の様子は、最も高い評価の“満足”が昨年の 51.2%から 93.8%に増加し、“やや満足”の 6.3%を加えると肯定的な回答が 100%を占めた。昨年の“どちらともいえない”9.8%、“やや不満”2.4%は皆無になった。おおむね良好と評価できる半面、昨年度は経験豊かな社会人学生が多数を占め、大学院授業により高度な内容を求める傾向があったといえること、および、本年度は回答率が低いことから、数字の改善をそのまま評価することには慎重さが必要である。

予習時間について各年の最も多い回答をみると、2021 年；1 時間以上 2 時間未満、および、30 分以上 1 時間未満各 37.5%、2022 年；30 分以上 1 時間未満 52.9%、2023 年；30 分未満 62.5%、2024 年；2 時間以上 3 時間未満 40.0%、2025 年；30 分以上 1 時間未満 43.9%から、1 時間以上 2 時間未満、および、30 分以上 1 時間未満各 31.3%が最多を占めた。年によって変動が大きい、前年との比較では最多項目は 1 段階の改善が見られ、昨年は 0%だった 2 時間以上 3 時間未満が 6.3%に増加した一方、ほとんどしなかったが 9.8%から 6.3%に減少した。昨年度は、昼間働き夕刻以降の授業に参加する社会人大学院生が多数を占めたことに對し、時間的に余裕がある学生が増えたことを反映していると思料するが、予習の取り組みの差異が授業の品質確保に影響する可能性が否定できないことから、より一層、事前学修を強化する必要がある。

復習時間について同様に比較すると、2021 年；1 時間以上 2 時間未満 75.0%、2022 年；1 時間以上 2 時間未満 35.3%、2023 年；1 時間以上 2 時間未満、および、30 分未満各 37.5%、2024 年；1 時間以上 2 時間未満 30.0%、2025 年；30 分以上 1 時間未満 35.0%から 30 分以上 1 時間未満の 56.3%が最多となった。対前年で最多項目は同じであるが、35.0%から 20%以上増加して復習への取り組みは消極的となった。他方、15.0%を占めたほとんどしなかったは 0%となった。予習、復習ともに取り組みが十分とは言えない学生がいる可能性も否定できないことから、授業への取り組み全般について事前の周知、および、各授業における徹底を敢行する必要がある。

教員による目的・目標の説明、および、教員の説明の分かりやすさについては、2025 年は、“強くそう思う”はともに 36.6%にとどまったが、2026 年度はともに 81.3%に増加した。また、“強くそう思う”との回答は、授業の内容をよく理解できたか 81.3%、質問への対応の適切さ 81.3%で、“そうは思わない”“全くそうは思わない”は皆無である。改善の余地はあるものの、教員の取組みはおおむね適切なものであると受け取っている。

授業を受け研究に対する意欲が増したかについては、授業が学問的な問いを深掘りする視点と影響力を有していたかを評価するもので、質問項目の中でも最も重要な質問の一つである。この質問について、前年の“強くそう思う”31.7%、“そう思う”58.5%から、それぞれ 75.0%、25.0%に変化した。学問的な問いを深掘りする観点からもおおよそ適切に授業運営されていると評価する。

本件アンケートの対象学生は主として 2026 年度入学の 1 年次生であるが、学生数が前年度よりも少なく、学生の学びに対する欲求も相対的に類似していると思料できる。このことが回答率の低さや、相対的に良好な評価につながったと思料する。対前年でみると評価が上がった点が多く、教員と学生の関係も良好に保持できたと考えるが、今後、より多様

な学生を受け入れることを念頭に改善を加える必要がある。不動産に係る社会課題の拡大や不動産実務の進化を背景に、大学院教育に求められる内容も変化していることを認識し、大学院教育も深化する必要がある。そのためには引き続き、教員と学生の協働が不可欠と考えている。

不動産学研究科長 中城 康彦

【学生向けコメント】

不動産研究方法論
授業で提示された資料、課題によく取り組んでいたと思います。 研究の初期段階に重要なことは、実感を持って理解してもらえたと思います。これから、調査を進める段階、分析を進める段階、分析をまとめる段階、それぞれで、なぜそのような方法をとるのか、説明が求められることになるので、この授業で学んだことを思い出して、また足りないと感じた点は、掘り下げてみて、良い研究を残してもらえたらと思います。
居住環境マネジメント特論
高い評価をいただきありがとうございました。 授業準備、授業中のディスカッションなど、覚えたり理解することにも増して、多角的に考える、検討することを主眼とした難しい授業でしたが、大学院らしい授業ができたと思います。これは、受講されたみなさまが一生懸命授業に向き合い、コミット（責任をもって取り組む）ことをしていただいたおかげだと思います。
不動産公法特論
授業評価アンケートにご協力いただいた受講生の皆さん、回答ありがとうございました。 報告資料の作成や議論において、積極的な取り組みがありました。みなさんのご意見を参考に、今後とも、より良い講義にしていきたいと考えています。
建築計画特論
今回の授業では、現実には生じているマンション問題について深い議論ができたと考えています。ここでの知見が、みなさんの研究の何らかのヒントになれば幸いです。授業運営にご協力いただき、誠にありがとうございました。
不動産取引法特論
履修者7名中、3名から回答がありました。ありがとうございました。 すべて満足との回答で、大変良かったです。履修者に恵まれ、充実した内容の授業ができ、私も大変満足です。
都市空間マネジメント特論
この講義では、グッドプラクティス事例や関連データから都市空間のあり方、マネジメント方法を学びます。身近な都市空間を実際に見学し、そのあり方をまとめる演習的な要素を取り入れ、能動的に理解を深める授業運営を意識しています。 今年度、履修人数は多くありませんでしたが、課題として取り組んでもらったテーマは、各自の研究や日常生活での気づきから、バラエティに富んだ内容が取り上げられ、充実した分析がされ、張り合いのある授業になりました。授業をきっかけに今後の研究につながる視点をみつけてもらえれば嬉しいです。
不動産会計特論
授業の履修お疲れさまでした。皆様には不動産経営分野の研究手法を中心に紹介をいたしました。多くの文献に触れていただいたと思います。その中から自分の研究を進めるうえでヒントになったものがあればうれしく思います。修士論文を完成させることは非常に大変なことと思います。皆さんの研究には、いつでも相談にのりますので、気軽に研究室に来てください。